

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	923 乳幼児の育成指導事業	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
		目	01	保健衛生総務費
基本 施策	08 子どもを産み育てやすい環境をつくる	細目	241	母子保健事業
		細々目	02	乳幼児の育成指導事業
行革大綱の重点事項番号		7		
担当部課	コード	553000		担当者 氏名
	名称	伊賀支所住民福祉課		
		連絡先	45 - 9105	
			(内線)	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	◎乳幼児相談等:乳幼児及びその保護者 ◎いのちの育み教室:管内小学校5年生及び中学校3年生	※対象件数
成果(どうする)	・育児に対する正しい知識が得られ、保護者の子育ての不安の軽減を図ることができる。 ・自分の命も他人の命も同様に大切に思える学童が増加する。	
根拠法令・要綱等	母子保健法	
開始年度/平成 40 年度	関連事業	
終了年度/平成 40 年度		
H21 事業内容	【乳幼児相談】毎月実施。身体計測、育児上の相談に保健師、栄養士が応じる。【離乳食教室】離乳開始から2回食まで、3回食から離乳完了期に分けて(年間4回ずつ実施)、栄養士による講義と調理実習を行う。【乳児教室】2回1クールで、年間2クール開催。事故予防と心肺蘇生法の実習、ベビーマッサージとおやつのとおり方等について学んでもらう。【いのちの育み教室】小学校(3校)5年生・中学校(2校)3年生を対象に、助産師による講義と地域の妊婦と乳児とその保護者とふれあいを体験してもらい、命の大切さについて感じてもらう機会とする。【訪問】出生児の全戸訪問(こんには赤ちゃん訪問)。及び経過観察児の訪問。	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
乳幼児相談来所者数		人	目標 70	目標 70	100	100
			実績 58	実績 97		
離乳食教室受講者数		人	目標 100	目標 150	150	150
			実績 127	実績 146		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
いのちのはぐみ教室を受講した学童・生徒の感想		実際に受講した人がいのちの重さや出生の大切さなどを実感したとの観点からの指標	%	目標 90	目標 90	90	90
				実績 92.7	実績 94.5		
離乳食教室受講者の満足度		受講者の理解度及び不安の軽減などを知るといふ観点からの指標	%	目標 95	目標 95	95	95
				実績 98	実績 97.3		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	98	97	104	104				
Aの財源内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0						
一般財源	98	97	104	104				
事業投入人件費(B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト(A)+(B)	1,538	1,537	1,544	1,544				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)	
法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	○	
市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	○	
民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効	○	活動指標は目標値をほぼ達成しており、有効である
事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高
基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	サービス水準や対象を見直す余地がある。
達成度	○	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。
【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
予算の繰越の有無	無	育児不安等気になる保護者に対しては、声をかけ経過観察を行っているが表面化していない
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		ケースがあるかも知れないため、こんには赤ちゃん全戸訪問等で事業の紹介を勧める。
他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	○	事業の要望が多いのはよいが、予算やマンパワーに限られているため、子育て支援センターや学校と連携し事業の見直しを勧める。
【事業名】		
受益者負担を求められることができる事業である。		
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	「こんには赤ちゃん事業」の実施に向けて業務は拡大し、予算、マンパワーとも現状では不足している。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	乳児教室は20年度より回数を増やし、毎月実施にした。赤ちゃん訪問を実施し、事業を紹介しているため来所者は多い。必要に応じ、他支所や本庁に協力依頼を求め対応している。

今後の方向性(Action)

評価者氏名(担当課長)	中林 千春
【方向性】	手法改善
【理由】	
事業の方向性	子育て支援センター事業が充実してきているため、乳児教室の事故予防やベビーマッサージ等の内容は子育て支援センターで実施し必要に応じ協力する。離乳食教室は、母親に実習にできるだけ集中してもらえよう他支所の協力も得てスタッフを増員する。
現時点における課題、その他	いのちのはぐみ教室は学校の要望も大きく、支所健康福祉側も必要性を感じているが、学校や学年の特性や教育カリキュラムの特性もあることから各校に応じた内容にしたほうがよいのではないかと。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成22年度から「いのちのはぐみ教室」は学校が主体で、計画等や実施を行い支所側は赤ちゃんとのふれあい体験のサポート等で協力して実施する。